

科目名	現場のための ICT 活用	2 単位
担当者	佐藤慎一	
テーマ	ICT の基礎をおさえ、現場における効果的な ICT 活用をデザインする	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 情報通信技術 (ICT)、情報リテラシ、ICT スキル標準</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 情報通信技術 (ICT) は生活・仕事の多くの場面で使われており、現場で活用する者としても一定のリテラシを持ち、時には技術者と協働しつつ、その効果的な活用をデザインしていく必要がある。本科目では、このことを念頭に、基礎的な事項や事例についての学習を進める。ICT は広範囲に渡るが、汎用的で多くの分野で活用されているコンピュータやスマートフォンを含む情報端末、および、ネットワークを中心に扱う。ICT の発展、その歴史的な経緯等、基礎的な事項を確認した上で、職業人 (非技術者を含む) として ICT を扱う際に必要となる、いわば一般常識としての知識やスキルについて、公の機関が示す資料等も参考に考えていく。また、国策としても取り組まれてきた教育現場での ICT 活用の事例を取り上げ、現場に ICT を導入することの効果・課題などについて考察する。</p> <p>&lt;学習目標&gt; ・情報端末・ネットワークの系譜・発展の方向性を理解する。 ・一般の職業人として求められる ICT の知識・スキル領域を理解する。 ・効率化・問題解決等のための適切な ICT 活用をイメージすることができる。</p>	
授業の進め方	第 01 回 ICT に関する本講義での対象領域 第 02 回 情報端末の歴史 第 03 回 ネットワークの歴史 第 04 回 ICT 活用スタイルの変化 第 05 回 ICT を活用した社会像 第 06 回 現場で ICT を活用するために求められる知識・スキル領域 第 07 回 教育現場における ICT 活用概要 第 08 回 教育現場のための ICT スキル標準 第 09 回 ICT 活用試行実践の企画 第 10 回 ICT 活用試行の実践 第 11 回 ICT 活用実践の実践と振り返り 第 12 回 現場における ICT 活用事例の考察(1) 第 13 回 現場における ICT 活用事例の考察(2) 第 14 回 現場における ICT 活用事例の考察(3) 第 15 回 まとめ	
事前学習の内容・学習上の注意	・ICTの活用のための技術的敷居は下がっており、専門家でなくても多くのことができるようになってきている。基本的な姿勢として、ICT活用で自ら行えることの可能性を広く考えて取り組んでほしい。 ・ICT関連の技術・サービスは変化が激しく、必要な知識・スキルや方法論が必ずしも確立していない。本科目をベースとしながら自らの現場に引き寄せ、各受講者の中で構築するつもりで取り組んでほしい。 ・資料の用語がわからない場合には、インターネットでの検索、本科目の掲示板での質問等、状況に応じて適切に活用してほしい。	
本科目の関連科目		
テキスト	参考文献としてあげたもの他、Web で入手可能な情報・ファイルを活用する。 その他、必要が生じた場合にも、PDF 等、電子データで提供する。	

<b>参考文献</b>	未来投資戦略 2018—「Society 5.0」「データ駆動型社会」への変革—（内閣府） <a href="http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/miraitousi2018_d1.pdf">http://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/miraitousi2018_d1.pdf</a>  学びのイノベーション事業 実証研究報告書（文部科学省） <a href="http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/030/toushin/1346504.htm">http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shougai/030/toushin/1346504.htm</a>  IT パスポート試験シラバス Ver6.0（情報処理推進機構）（ICT スキル標準例として） <a href="https://www.jitec.ipa.go.jp/1_13download/syllabus_ip_ver6_0.pdf">https://www.jitec.ipa.go.jp/1_13download/syllabus_ip_ver6_0.pdf</a>
<b>成績評価方法 と基準</b>	掲示板での発言・発表・コメントの書き込み（60%）と、提出レポート（40%）をもとに評価を行い、全体で 60 点以上を合格とする。

科目名	国際保健論	2 単位
担当者	樋口倫代	
テーマ	グローバルヘルスとは何かということ概観した上で、グローバルヘルスの主要なトピックについての理解を深め、健康と社会、世界のつながりを考えるための基礎を身に付けることをめざします。	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt;          グローバルヘルス、健康の定義、プライマリ・ヘルス・ケア、ヘルスプロモーション、健康の社会的決定要因、ユニバーサルヘルスカバレッジ</p> <p>&lt;内容の要約&gt;          歴史的背景、定義、範囲について、まずその概念を大まかに理解します。その上で、健康と社会、世界とのつながりについて、多角的に考えます。活動の各論では、いくつかのトピックを取り上げます。</p> <p>&lt;学習目標&gt;          1. グローバルヘルスの歴史的背景、さまざまな定義、範囲が理解できる。          2. 健康と社会、世界のつながりとその対策について、分析的に議論できる。</p>	
授業の 進め方	<p>&lt;進め方および各自の役割&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>第 1 回～6 回の前半は、講師が問題提起しながらすすめる。(履修人数によっては、後半は下記 2) 同様履修者が担当する。)</li> <li>第 7 回～14 回は、履修者はテーマを見て希望の担当回を申請し、履修者間で調整を行った後、担当回を決定する。(1 人 1 回の予定とするので、履修人数によっては、一部講師が担当する。)</li> <li>担当者は、テキスト該当部分(回により別途指定資料)の要約とそこから生じた疑問や興味・関心の提示、議論の進行、まとめを行う。</li> <li>担当回以外の履修者は、事前にテキストを読み積極的に議論に参加する。(少なくとも 1 つの質問と 1 つのコメントをすること。)</li> </ol> <p>3) 15 回は講師がすすめる。</p> <p>以下各回のトピックと、指定教科書(第 3 版)の該当箇所を示す。一部参考資料は、別途指定するが、その際はフリーアクセスでダウンロード可能なものとする。</p> <p>グローバルヘルス総論          主にテキスト第 I 部を利用する。第 I 部は各回の参照箇所としてあげられていない節も読んでおくこと。</p> <p>第 1 回 世界と健康、グローバルヘルスとは? (第 I 部 1, 2, 第 IV 部 1, 2)          第 2 回 プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション (第 I 部 3, 4)          第 3 回 国際保健に関わる機関 (第 IV 部 9, 10)          第 4 回 ミレニアム開発目標と持続的開発目標 (第 I 部 10, 11)          第 5 回 健康の社会的決定要因 (第 I 部 7+別途指定)          第 6 回 ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (別途指定)</p> <p>グローバルヘルス各論 (1)          主にテキスト第 III 部を利用する。第 III 部は各回の参照箇所にあげられていない節も読んでおくこと。</p> <p>第 7 回 世界の母子保健 (第 3 部 1-3, 19)          第 8 回 世界の感染症対策 (第 3 部 12, 16-18, 20)          第 9 回 世界の非感染症対策 (第 3 部 4-9)          第 10 回 避難民、被災者に関連する健康課題 (第 III 部 10, 13)</p> <p>グローバルヘルス各論 (2)          第 11 回 保健医療人材の国際移動 (別途指定)</p>	

	<p>第 12 回 医薬品をめぐる諸問題（第 II 部 14+別途指定）</p> <p>日本で生活する・働く外国人の健康問題</p> <p>第 13 回 日本で生活する・働く外国人</p> <p>第 14 回 日本で生活する・働く外国人の健康問題</p> <p>第 15 回 やさしい日本語ワークショップ</p>
事前学習の内容・ 学習上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>• テキストは各版で構成・内容共に大きく異なる為、必ず指定された版を購入のこと。</li> <li>• テキストで概要を理解したうえで、積極的に議論に参加すること。</li> <li>• 各自の研究の対象国・地域やこれまでの経験等から、保健課題を自分に引き寄せて考えるよう、心掛けること。</li> </ul>
本科目の 関連科目	特になし
テキスト	<p>日本国際保健医療学会編(2013)「国際保健医療学第 3 版」杏林書院 本体 3,200 円+税</p> <p>(第 4 版が近日発刊されるとのことであるが、開講時点での受講生の入手可能性を確認してどちらの版を使うか判断する。)</p>
参考文献	必要に応じて、フリーアクセスのダウンロード可能な文書を、適宜事前に指定する。
成績評価方法 と基準	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 担当回の役割遂行度（20 点）、ディスカッションへの参加度（30 点）、最終レポート（50 点）により評価し、総合評価 60 点以上を合格とする。</li> <li>• 最終レポートの提出は、ディスカッションへの参加が十分であることを条件とする。</li> <li>• 最終レポートは基本的なレポートの書き方を守り、引用文献を用いること。</li> </ul>

科目名	障害と開発	2 単位
担当者	久野 研二	
テーマ	障害という課題を多様性を基礎にした共生を考える一つのきっかけとし、その視点から人間の多様性を前提とした社会開発のあり方を検討する。	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 1. 障害、2. 多様性、3. 共生、4. 社会的排除、5. 社会参加</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 障害とは単なる個人の身心機能の問題ではなく、社会的に構築された差異とそれに基づく社会的排除や不平等の課題である。障害とは、ジェンダーと同様に、医療などのある一分野の課題ではなく、開発全体にまたがる分野横断的課題であり、開発全体の枠組みの中で捉えられていく必要がある。それ以上に、障害という視点は人間の多様性を前提とした共生社会開発のあるべき姿を映しだし、既存の開発の枠組みや取り組みそのものをも批判的に捉えることを可能にする。 障害分野を専門とするものだけではなく、社会開発を学ぶ受講者にとっても有益な視点の獲得となることを目指す。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 人間の多様性を前提とした共生社会開発を実現するための理論的枠組みの理解。 共生社会を目指した「エンパワメント」と「社会・環境可能性の拡大 (Enablement)」のための具体的な実践ができる。</p>	
授業の進め方	<p>第 1 回：導入：講座の概要と進め方についての説明 第 2, 3 回：差異とは何か：「差異」「多様性」「正常」などの概念についての事例検討を通して議論する。 第 4, 5, 6 回：障害を読み解く視点：障害のモデル：「障害の社会モデル」を中心に、障害を読み解く視点としての障害のモデルを議論する。 第 7, 8, 9 回：開発と障害の統合：包括的枠組み：センのケイパビリティ・アプローチなどを中心に、開発と障害の諸課題を“一枚の地図”の上で理解していくことを可能にするための包括的な思考の枠組みについて議論する。 第 10, 11, 12 回：「障害と開発」のアプローチ：複線アプローチを中心に、社会開発の取り組みの具体的な枠組みとアプローチについて議論する。エンパワメントと「社会・環境可能性の拡大 (Enablement)」についても取り上げる。 第 13, 14 回：「障害と開発」の具体的な実践：適正技術や地域社会に根ざしたインクルーシブな開発 (Community Based Inclusive Development: CBID) など具体的な実践や取り組みについて議論する。 第 15 回：まとめ：レポート課題の振り返りを通して、本講座のまとめを行う。</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 科目開始前にコースガイドを読んでおくこと。</li> <li>・ 各講座の開始前に指定した資料・テキストを読んでおくこと。</li> <li>・ 各講座終了までにコースガイドに挙げている参考文献を少なくとも 3 文献以上は読み理解を整理しておくこと。</li> <li>・ 障害学や開発学での基礎的な理論に関する知識を前提として講義する。</li> <li>・ 授業ではテキストの読解による自習と平行して、映像資料などによる事例をもとにした議論を WEB 掲示板にて行う。テキストはあくまでも道標とし、テーマ毎の参考文献および検討内容をコースガイドに提示する。</li> <li>・ 上記のテーマと平行して、各自のレポートや修士論文執筆過程で生じる疑問や質問などについても議論していく。</li> </ul>	
本科目の関連科目	国際社会開発の基礎、地域社会開発論	

テキスト	久野研二・中西由起子「リハビリテーション国際協力入門」(三輪書店)。ただし、本が現在絶版のため、教員より履修者に対して PDF 版を提供。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ WHO・WB(2011) World Report on Disability (WHO の HP より無料ダウンロード可能)</li> <li>・ 森壮也編 (2008)『障害と開発：途上国の障害当事者と社会』(アジア経済研究所の HP より無料ダウンロード可能)</li> <li>・ 障害学研究：明石書店 (障害学会学会誌)</li> <li>・ アマルティア・セン(2018)「不平等の再検討:潜在能力と自由」 岩波書店</li> </ul>
成績評価方法と基準	授業への参加度 (30%)、提出レポート (70%) の方法で評価を行い、全体で 60%以上を合格とする。「授業への参加度」は掲示板への投稿回数とその内容等、「レポート」の採点基準は内容 65 点 (内訳：課題検討 20 点、分野理解度 15 点、論理性 15 点、客観性 15 点)、構成 35 点 (内訳：構成 15 点、表記・表現 10 点、体裁・様式 10 点) で評価する。

科目名	開発協力論	2単位
担当者	三宅隆史	
テーマ	SDGs 達成のために開発協力が果たすべき役割	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 開発論、SDGs、貧困削減、格差、気候変動、生物多様性、平和構築、防災、脆弱性、権利基盤アプローチ、ジェンダー主流化</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 開発論の変遷、持続可能な開発目標（SDGs）の背景と理念、開発協力のアクターの概要を理解した後、多様な開発課題の現状、開発課題解決のための開発協力の役割を協力事例と共に学び、最後にコミュニティ、ODA、NGO、企業の開発協力における役割とパートナーシップのあり方について検討する。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 1. 開発論の変遷と持続可能な開発目標（SDGs）に関連する概念を理解する。 2. 開発課題について理解し、課題・セクター別の協力のあり方について学ぶ。 3. 開発協力のアクターの役割と特徴について理解する。</p>	
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 担当者は、テキストの該当部分と指定文献の要約とそこから生じた疑問や興味・関心の提示、議論の進行、まとめを行う。</li> <li>● 担当回以外の履修者は、事前にテキストを読み積極的に議論に参加する。</li> <li>● 履修者全員が、各回のリアクションペーパーで、学んだこと、感想を提出する。</li> </ul> <p>第1回 イン트로ダクション ・自己紹介を兼ねて、各回のテキストの担当者を決定する。</p> <p>第2回 開発論の変遷 ・近代化論、従属論など開発協力に関する理念・概念の変遷を学ぶ。</p> <p>第3回 開発協力のアクター ・日本の開発協力のアクターの役割と特徴を学び、アクター間のパートナーシップのあり方について考える。</p> <p>第4回 持続可能な開発目標（SDGs） ・SDGsの採択の経緯、全体像、特徴、課題について学ぶ。</p> <p>第5回 貧困と格差 ・貧困と格差に関する概念とその変遷について学び、貧困削減分野の協力のあり方について考える。</p> <p>第6回 環境問題 ・気候変動、生物多様性などの環境問題の現状と課題について学び、環境分野の協力のあり方について考える。</p> <p>第7回 水・衛生と栄養 ・水・衛生、飢餓・栄養の現状と課題、改善のための協力のあり方について学ぶ。</p> <p>第8回 平和構築 ・平和、構造的暴力、人間の安全保障の概念について学び、平和構築分野の協力のあり方について考える。</p> <p>第9回 災害と開発 ・災害、ハザード、脆弱性、などの概念について学び、災害復興分野の協力のあり方について考える。</p> <p>第10回 子どもと若者 ・子どもの権利、権利基盤アプローチ、児童労働、児童婚に関する概念、現状について学び、子ども・若者の権利保障分野の協力のあり方について考える。</p> <p>第10回 ジェンダーと開発 ・ジェンダー、WID、GADの概念、ジェンダー分析の手法について学び、開発協力に</p>	

	<p>におけるジェンダー主流化のあり方について考える。</p> <p>第11回 教育開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎教育の普遍化を目標としてきた教育開発の変遷とその背景、非識字や不就学の要因と解決のための協力のあり方について学ぶ。</li> </ul> <p>第12回 コミュニティの参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開発におけるコミュニティ参加の意義、コミュニティ参加支援のためのツール（PLA）について学び、実際のコミュニティ参加における課題について考える。</li> </ul> <p>第13回 援助協調の潮流と日本のODAの対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・OECD/DACの主導により議論されてきた援助協調の変遷と現状を学び、援助協調に対する日本のODAの対応について検討する。</li> </ul> <p>第14回 開発協力におけるNGOの役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NGO、NPO、CSOなどの概念を理解し、開発協力におけるNGOの役割と日本のNGOの課題について検討する。</li> </ul> <p>第15回 開発協力における企業の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・CSR、ESG投資の概念を学び、開発協力における企業の役割と課題について検討する。</li> </ul>
<b>事前学習の内容・学習上の注意</b>	各授業の前に指定文献、テキストの該当章を読んでおいてください。
<b>本科目の関連科目</b>	途上国社会経済論、開発組織・制度論、コミュニティ開発、国際保健論
<b>テキスト</b>	『SDGsと開発教育:持続可能な開発目標ための学び』2016、田中治彦・三宅隆史・湯本浩之（編著）、学文社 上記以外に授業前に読んでおくべき文献を電子データで提供します。
<b>参考文献</b>	『SDGs—危機の時代の羅針盤』2020、南博・稲場雅紀著、岩波新書 『ハンドブック日本の国際協力 アジア編』2021、重田康博・太田和宏・福島浩治編著、ミネルヴァ書房
<b>成績評価方法と基準</b>	<p>期末レポートの評価（40%）、各回リアクションペーパー提出状況（30%）、各回ディスカッションへの参加状況（30%）で評価。60%以上を合格とする。</p> <p>期末レポート 各自の関心のある国の日本のODAの「国別開発協力方針」（外務省ホームページ）を読み、「SDGs達成のための開発協力の役割」という観点からパブリック・コメントを作成する。</p>

科目名	マイクロファイナンス論	2単位
担当者	石坂 貴美	
テーマ	低所得者層のための金融サービスを理解する	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt;  貧困削減、マイクロファイナンス、金融包摂、女性グループ、</p> <p>&lt;内容の要約&gt;  この科目では、マイクロファイナンスの基本概念と現状について理解する。マイクロファイナンスは、低所得者層に対して金融サービスを通じた経済的自立を目指す包括的開発の手段として活用されている。様々な金融サービスが多様な機関によって提供されており、その効果や課題をめぐる議論も枚挙にいとまがない。その実態を把握するとともに、講義では、いまだに金融にアクセスできない人々のためのアプローチである金融包摂についても触れる。</p> <p>&lt;学習目標&gt;  マイクロファイナンスの多様な実態を理解する  マイクロファイナンスの効果と課題を説明できる。  金融包摂に向けた新たな取組みに関する知識を身に付ける。</p>	
授業の進め方	<p>以下の各回のテーマに沿って、担当者を決定する。担当者は、予習のために教員が提示した資料をまとめ、討論の議題を提起する。履修生は予習課題を読み、討論へ参加する。</p> <p>第1回 ガイダンス  第2回 マイクロファイナンスとは何か。概要をつかむ  第3回 マイクロファイナンス：マイクロクレジット（融資）  第4回 マイクロファイナンス：貯蓄  第5回 マイクロファイナンス：保険  第6回 多様な主体やサービスプロバイダー：誰がどのようにサービスを提供しているのか  第7回 効果をめぐる議論 1 既存の研究  第8回 効果をめぐる議論 2 RCTによる検証  第9回 女性のエンパワーメント効果  第10回 課題1 普及と最貧困層へのアプローチ  第11回 課題2 多重債務問題  第12回 金融包摂  第13回 コロナ禍における技術（デジタル、IT）の役割  第14回 事例：金融サービスをめぐる現地の人々の実践  第15回 自由討論</p> <p>履修生のみなさんの興味関心、討論の進み具合や内容によって、順番を変更したり、テーマを変更することもあります。</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	<p>テキストはダウンロードできる論文や報告書、ネット上で入手できる情報等を活用する。予習のために必要に応じて紹介する。また、本科目に関連した自身の現地での体験や知見の共有に期待する。</p>	
本科目の関連科目		

テキスト	粟屋晴子『マイクロファイナンス早わかり講座』初級編および中級編 オイコクレジットジャパンのHP ( <a href="http://www.oikocredit.jp/">http://www.oikocredit.jp/</a> ) より入手可能、 CGAP の論文、報告書等
参考文献	Joanna Ledgerwood, Julie Earne and Candace Nelson Ed, (2013) <i>The New Microfinance Handbook</i> , World Bank, D・カーランとJ・アペル (清川美幸: 訳) (2013)『善意で貧困はなくせるのか?』み みすず書房、 アビジット・V・バナジーとエステル・デュフロ (山形浩生: 訳) (2012)『貧乏人の経 済学』 みすず書房 岡本眞理子・栗野晴子・吉田秀美 (1999)『マイクロファイナンス読本』明石書店、 石坂貴美 (2012)「マイクロクレジット (小規模融資) 利用者のケイパビリティ拡大に 向けた検討」『国立民族学博物館研究報告』36-2 <a href="https://minpaku.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&amp;item_id=3878&amp;file_id=18&amp;file_no=1">https://minpaku.repo.nii.ac.jp/?action=repository_uri&amp;item_id=3878&amp;file_id=18&amp;file_no=1</a> ————— (2016)『 Bangladesh のマイクロ医療保険』風響社 ————— (2020)「低所得者層のためのマイクロ保険」『愛知大学国際問題研究所紀要』 156 <a href="https://aichiu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&amp;active_action=repository_view_main_item_detail&amp;item_id=10512&amp;item_no=1&amp;page_id=13&amp;block_id=17">https://aichiu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&amp;active_action=repository</a> <a href="https://aichiu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&amp;active_action=repository_view_main_item_detail&amp;item_id=10512&amp;item_no=1&amp;page_id=13&amp;block_id=17">ry</a> <a href="https://aichiu.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&amp;active_action=repository_view_main_item_detail&amp;item_id=10512&amp;item_no=1&amp;page_id=13&amp;block_id=17">_view_main_item_detail&amp;item_id=10512&amp;item_no=1&amp;page_id=13&amp;block_id=17</a>
成績評価方法 と基準	担当箇所の報告と問題提起 (50%)、講義内の討議への参加や質問 (50%)

科目名	国際開発ワーカー（支援者）のためのビジネスの基礎	2単位
担当者	野田 さえ子	
テーマ	ビジネスセンスを磨こう	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 援助者のビジネスセンス、マーケティング、ブランディング、地場産業振興、起業、零細・中小企業振興</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 「道徳なき経済は犯罪である。経済なき道徳は寝言である」 by 二宮尊徳</p> <p>貧困解消、エンパワーメント、地域やコミュニティの再生、福祉の充実、中小・零細企業振興…。こうした途上国の様々な開発課題を考える上で求められているのは、社会性の実現の礎となる<u>事業性（ビジネスセンス・経営力）の確保</u>にある。各機関の予算や資源に限りのある中、国際開発ワーカー（あるいは支援者）として社会に向き合い成果を上げることを志す場合、個々人にビジネスセンスあるいは経営力を身に着けることが必要となってきた。本講座では、失敗事例や成功事例の分析を通じて、支援者として必要なビジネスの基礎知識および視座を獲得することを目的とする。</p> <p>&lt;学習目標&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際社会開発領域（事業運営・経営）における基礎的かつ実践的課題に取り組みながら、国際開発の支援者として成果を上げるために必要とされる視座を習得できる。</li> <li>2. 各人のそれまでの現場の経験や実践事例を、相対化し、開発学のコンテクストにおける経営学の枠組み（理論や方法）によって体系化／総合化することができる。</li> </ol> <p>具体的には以下の3つにおける領域の知識・理解、技能・表現、思考・判断力を持つ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 援助者の思い込みや傾向性、事業者との視点の違いに気づく。 —援助者のメンタリティ、プロダクトアウトからの脱却</li> <li>(2) ビジネス運営の基礎知識を得る。 —ビジネスの原理原則、事業計画、損益計算、マーケティング、ブランディング、地域ブランディング、リスク管理</li> <li>(3) ビジネス振興のための支援者として必要な視点を得る。 —各種アクターの養成、サプライチェーン構築、販路支援手法の比較、ビジネス支援の投資効果</li> </ol>	
授業の進め方	<p>テキストおよび講師配布の演習用分析資料(エクセル)に沿って講義と議論を進める。</p> <p>第1回 援助者のメンタリティ 援助者の傾向性 第2回 失敗と成功の確率論（ピラミッド型と積み木型） 第3回 政府・エージェント・生産者の役割分担 第4回 市場のサイズと物流コスト 第5回 ビジネスの原理・原則 ～付加価値信仰に陥る前に 第6回 お金の流れとサプライチェーン 域内連携の重要性 第7回 援助者のプロダクトアウト ケースから学ぶ①売り先がみつからなかった有機野菜 第8回 ケースから学ぶ②放置された検査キット製造ラボ 第9回 ケースから学ぶ③研究プロジェクトを企業活動にしてみたら 第10回 マーケティング概論 ターゲットを定める 第11回 マーケティング概論 4P（価格、売り場、販売促進、商品）を定める 第12回 販路支援のための2手法の比較</p>	

	(常設型アンテナショップと期間限定型テストマーケティング) 第 1 3 回 事業を起すための資金計画 ※エクセル演習 第 1 4 回 儲かっているの？損しているの？事業を運営するための損益計算 第 1 5 回 ビジネス支援の投資効果
<b>事前学習の内容・ 学習上の注意</b>	1. 現実世界と理論とを常に統合させ、現実世界における自らの行動の選択肢の見直しや現実世界における判断力の向上を図ること。 2. 様々な選択肢を多様に検討すること。答えは一つではなく、バランスであり、そのバランスをより具体的に考察し、選択していくことを大切にする事。 3. 過去の分析については、クリティカルシンキング（批判的省察）を、また、未来についての創造については常に建設的に考えること。
<b>本科目の 関連科目</b>	開発組織・制度論、開発のミクロ経済学、途上国社会経済論、 マイクロファイナンス論
<b>テキスト</b>	国際協力の教科書シリーズ 2 「ビジネス振興と経営～ビジネスセンスを磨こう」 野田さえ子、吉川典子、奥田桐子（人の森 2016）
<b>参考文献</b>	さらに極めたい人向けの参考文献として Philip Kotler & Kevin Lane Keller “ Marketing Management” 13 <sup>th</sup> Edition, (Pearson International Edition 2008) 版は違いますが、日本語訳は 2020 年時点で以下の本が該当。 「コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 第 13 版」 Philip Kotler (著), Kevin Lane Keller (著), 恩蔵 直人 (監修), 月谷 真紀 (翻訳) (丸善出版 2014)
<b>成績評価方法 と基準</b>	<p>討論や質疑応答はメーリングリスト上で行い、最終レポート作成（A4で5ページ以上 文字数制限なし、フォーマット不問）を行う。</p> <p>レポート作成は、自分や自分の属する団体、あるいは自分が関わる案件（ない場合は身近な事例）を各自取り上げ、本講座での得たコンセプトや視座を駆使して、同案件や組織の事業性の向上のための改善案の立案を行う。</p> <p>成績評価は最終レポートにおいて、知識の習得と活用の 2 点において評価を行う。</p> <p>具体的には、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本コースを通して事業性を向上させるための具体的な知識・視座を習得したか（知識の習得） 70%</li> <li>2) 習得した知識・視座を活用して創出した改善案における事業性そのものへの評価（知識の活用） 30%</li> </ol> <p>に基づいて行う。</p> <p>これらの基準を基に以下の A、B、C、D、K の判定とする。</p> <p>A 期末レポートを提出し、知識の習得と知識の活用を十分示した方  B 期末レポートを提出し、少なくとも知識の習得を十分に示した方  C 期末レポートを提出したけれども、知識の習得や知識の活用双方において、大学院生のレポートとして質的にかなり課題があったものの、加筆・修正を行い、再提出したことにより、最低限の知識習得を示した方  D 掲示板では投稿したものの期末レポートを未提出、あるいは、提出したものの基準に達しておらず加筆を求められたにもかかわらず再提出できなかった方  K 受講者本人から棄権する旨の希望がよせられた場合</p> <p>なお、知識の習得の達成度は、はすべての章からのコンセプトを分析することではなく、関連する知識やコンセプトを取捨選択して示せばよい。</p> <p>なお、メーリングリスト上の討論の参加度・及び討議内容を重要視し、加点材料とする。また、ピアレビューへの貢献や、最終レポートにいたるまでの思考のプロセスと同内容の発展過程を重視して評価する。</p>

科目名	現地語による開発事例研究	2単位
担当者	教務担当運営委員	
目的	<p>「現地語による開発事例研究」は、開発事例を研究する科目ではなく、開発事例研究に必要な現地語能力を確認する科目です。本学が指定した現地語に関して、本学現地語指導教員により履修者の当該言語の語学力の評価を行い、一定水準をクリアした場合に、単位認定するものです。</p> <p>本科目の設置の背景について記しておきます。本研究科には、これまでに各国の現地語を使いながら実務を行ってきた、あるいは行ってきた院生がいます。本研究科では語学科目を設けていませんが、現地語の習得を奨励するために、各自が身につけている言語が、実際に開発事例調査を遂行するのに必要な一定のレベルに達していれば、その能力を単位認定することを目的に本科目が設けられました。よって、この科目は、新たに語学を教えたり学ぶものではありません。</p>	
授業の進め方	<p>この科目は、通常のテキスト科目とは異なり、所定のテキストや決められた期間で授業を実施するものではなく、院生の申請に応じて、随時に実施・評価されるものです。</p> <p>院生からの申請受付後、研究科より実施予定の2週間前までに、当該履修申請の可否と、可の場合は申請者に対して現地語指導教員との面談日程を通知します。なお、申請時に提出された「希望の審査日程」については、現地語指導教員の都合により必ずしも希望に添えない場合があります。その場合は、再度、申請者と日程調整を行うこととなりますが、その結果として日程が合わない場合は、当該の履修申請については「取り下げ」という扱いとなります。</p> <p>当該科目の審査は、本研究科の現地語指導教員が、申請者とのやりとりを踏まえ、適切な方法を選んで進めます。対象言語についての会話力・読解力を中心に、直接対面、または、インターネットを用いた通信手段（Zoom等を用いたオンラインを含めて）により実施します。詳細な審査項目・方法等は各言語により異なりますので、現地語指導教員の指示に従ってください。なお、審査に関わる面談時間は長短ありますが、1時間程度です。</p> <p>受講者の修士課程での研究の進捗状況によっては、受講時点での研究計画を現地語で事前に提出する等して、調査に関わる態度や対象とする土地の文化的背景についての理解も確認される場合があります。あるいは、事前に資料が配布され、それについての議論を行う形をとる場合もあります。</p> <p>なお、研究計画に記載される現地での調査内容自体は審査の対象ではないため、フィールドで事例調査を行う準備が整っていることを前提とはしません。研究対象地域での調査活動に、一般的に求められる語学レベルを判定するにとどまります。しかし、具体的な調査計画が、既にできてきている場合は、それに基づく質問があることは予想されますし、実践的なやりとりによって確認されることが望ましいでしょう。</p>	
成績評価方法と基準	A（優）、B（良）、C（可）、D（不可）で示します。C以上が合格となります。	

<b>Course</b>	<b>Social Development – Focus on Gender and Development</b>	<b>Credit: 2</b>
<b>Lecturer</b>	<b>Professor Emerita Rosalinda Pineda Ofreneo, Ph.D.</b>	
<b>Theme</b>	<p><b>Theme of the course:</b> Provide an overview of social development perspectives, issues, and practices focusing on gender and development in the context of sustainable development, using case studies and field experiences from the Philippines, Japan and other countries of interest to participants</p>	
<b>Objective</b>	<p><b>1. Key words - Sustainable Development, Gender and Development</b></p> <p><b>2. Overview</b> The course will rely on co-learning processes whereby students will be provided maximum opportunities to participate, exchange views, raise questions, share field experiences, and if they wish, facilitate discussions online. It will consist of three parts. The first part will introduce social development perspectives, specifically sustainable development, and then focus on why gender matters in sustainable development. For this part, students will be asked to submit one-page exercises, summaries, or reflection papers on assigned readings so that they can process these readings in writing. If they wish, students may volunteer to facilitate discussion on a specific topic or reading online. They will also choose one book, article or video on which they will write a review for submission at the end of the second month.</p> <p>The second part will present women's situation globally and in specific countries, as well as gender and development issues and trends of interest to students; for example, poverty and gender; inequality and exclusion based on gender and other differentiating but intersecting factors; gender equality vis a vis climate change and other concerns included in the Sustainable Development Goals, among others. The readings will be selected based on the interest of the students and may focus on the impact of the global pandemic, especially on developing countries. Students may volunteer, if they wish, to facilitate discussion online for an issue of their choice.</p> <p>The third part will explore gender and development approaches, strategies, and innovative solutions that address the specific issues discussed in the second part, based on documented field experiences and available case studies from the Philippines or other countries of interest to students. Based on this exploration, students will be asked to write a report on one field experience or case study of their choice. Alternatively, they may report on what they learned from this course or discuss a social development experience they underwent from the perspective of the course.</p> <p><b>3. Learning goals</b> a) Explain key concepts of social development, particularly gender and development in the context of sustainable development;</p>	

	<p>b) Discuss women's situation as well as major gender and development issues, concerns and trends, including the impact of the global pandemic, particularly on developing countries;</p> <p>c) Demonstrate a deeper and more comprehensive understanding of how a particular gender and development issue is being effectively addressed by specific approaches, strategies, or innovative solutions through field experiences and case studies from the Philippines, Japan and other countries of interest.</p>
<p><b>Method for conducting the course</b></p>	<p><b>Proposed schedule and outputs for the course:</b></p> <p><b>April 13-18</b> - Introductions, guidance regarding the course, sharing students' hopes and fears(if any) regarding the course, submission of student participant's profile, and a short list of topics of interest to them</p> <p><b>April 19 to May 9</b> - Reading and discussion on social development, why gender matters to sustainable development, and key concepts in gender and development Output for submission on May 9: Short reflection on why gender matters in the student's life and work, as well as to social development in general</p> <p><b>May 10 to 23</b> - Reading and discussion on the state of the world's women, (with focus on Japan and other countries of interest to students) and the issues and trends which have a major impact on them Output (due May 23) – Short essay on why gender equality is a cross-cutting theme in the Sustainable Development Goals (SDGs), and the major challenges Japan faces compared to other countries in pursuing SDG No. 5.</p> <p><b>May 24 to June 6</b>– Review/reflection (for submission on June 7) on a chosen book, article or video; You may recommend your own from other sources</p> <p><b>June 7 to June 20</b> -Discussion of gender and development issues (in relation to poverty, inequality, exclusion, etc) - submission of one page summary of learning/insights (due June 20)</p> <p><b>June 21- July 4</b> Discussion of a gender and development issue (i.e., in relation to the climate emergency, pandemics, hunger, armed conflict, and other concerns reflected in SDG goals, or of particular interest to students) – submission of one-page summary of learning/insights (due July 4)</p> <p><b>July 5–18</b> Sharing of field experiences and case studies on specific gender and development approaches, strategies, and innovative solutions addressing an issue discussed earlier in the course</p> <p><b>July 11- 15</b> - July 12 (Mon.) to 16 (Fri.): Period for giving assignments for final reports from instructors to students (based on NFU guidelines)</p> <p>The report could be on a field experience or case study on a specific topic of particular interest to the student for presentation and comment.</p>

	<p>Alternatively, the student may write a short review of what he or she learned from the course, or an article about his/her own social development experience from the perspective of the course.</p> <p>July 30 (Fri.) to August 5 (Thur.): Period for revision and final report submission from students to instructors (based on NFU guidelines)</p> <p><b>NOTE TO STUDENT PARTICIPANTS:</b></p> <p>The faculty in charge will be able to write and respond on the web every Monday but will also be accessible for individual consultation via email (<a href="mailto:rpofreneo@gmakl.com">rpofreneo@gmakl.com</a>) anytime. (Monday was chosen as an ideal day because you can use your weekends to focus on your reading and writing, especially if you work during weekdays.)</p> <p>So please continue the discussion among yourselves at other times, with or without the leadership of the student facilitator who may volunteer for the topic. This course is not a one-on-one class between the teacher and each student, but an interactive space for us all. Thus, it is important that everyone contributes to the Bulletin Board regularly in order to keep our conversations going and to make our learning exchanges rich, varied, and fruitful.</p> <p>Observations and insights regarding your own work and experiences from your particular disciplinary perspectives in different developing countries are especially welcome so we can have broad sources of knowledge to draw from. The success of our class depends very much on our co-learning process, and each one of us has a responsibility to keep this alive and meaningful by contributing to the Bulletin Board and/or facilitating discussion of a topic you are very much interested in .</p> <p>If you become too busy with work and family responsibilities or are out on field, please continue opening our Bulletin Board to read the posts and then catch up with posts of your own when you already have the time. This way, you keep yourself in the loop and will be able to fulfill the requirements before the deadline despite time limitations.</p>
<p><b>TEXTS</b></p>	<p>These are recommended texts for initial exposure. Students are free to suggest and post other readings, videos, websites, power point presentations and other materials which they think may be more appropriate, timely, and useful to the class. Materials in Japanese or if in English, with translations in Japanese, may be more helpful.</p> <p><b>FOR PART I. Perspectives and Conceptual Handles</b></p> <p><b>A. On Social Development, Sustainable Development</b></p> <p>UN Research Institute for Social Development (2020). Overcoming Inequalities: Towards a New Eco-Social Contract. UNRISD Strategy 2021-2025. Retrieved from</p>

[https://www.unrisd.org/80256B3C005BCCF9/\(httpAuxPages\)/DD3B34E514A44997802586D80055AC4F/\\$file/UNRISD-Strategy-2021-2025.pdf](https://www.unrisd.org/80256B3C005BCCF9/(httpAuxPages)/DD3B34E514A44997802586D80055AC4F/$file/UNRISD-Strategy-2021-2025.pdf) Sachs, Jeffrey D. (2015). Introduction. *The Age of Sustainable Development*. Columbia University Press. Retrieved from <<https://issuu.com/columbiaup/docs/sachs-sustainable-excerpt/3?e=8118850/11496725>>

Sachs, Jeffrey D. ((2018). Intro to Sustainable Development. [Short Videos.] Retrieved from <<https://www.coursera.org/lecture/sustainable-development/intro-to-sustainable-development-3KCfl>>

UNDP. Sustainable Development Goals. Retrieved from [http://www.undp.org/content/dam/undp/library/corporate/brochure/SDGs\\_Booklet\\_Web\\_En.pdf](http://www.undp.org/content/dam/undp/library/corporate/brochure/SDGs_Booklet_Web_En.pdf)

What is Sustainable Development? Retrieved from <https://www.youtube.com/watch?v=7V8oFI4GYMY>

Sustainable Development Goals Explained with 3 Useful Tips Retrieved from <https://www.youtube.com/watch?v=qfOgdj4Okdw>

## **B. On Gender and Development**

Reeves, H. and Baden, S. (2001). Gender and Development: Key Concepts and Definitions. BRIDGE Report No. 55. Institute of Development Studies UK. Retrieved from <https://www.yumpu.com/en/document/read/5665863/gender-and-development-concepts-and-definitions>

UNDP (2019). Gender\_equality\_as\_an\_accelerator\_for\_achieving\_the\_SDGs. Retrieved from [https://www.undp.org/publications/gender-equality-accelerator-achieving-sdgs?utm\\_source=EN&utm\\_medium=GSR&utm\\_content=US\\_UNDP\\_PaidSearch\\_Brand\\_English&utm\\_campaign=CENTRAL&c\\_src=CENTRAL&c\\_src2=GSR&gclid=Cj0KCQiA3-yQBhD3ARIsAHuHT66IPZvn82ZAz-w3FW0GwebTQgerm3WXUOKaPn9Xnljs4uyA7ClbkasaApfzEALw\\_wcB](https://www.undp.org/publications/gender-equality-accelerator-achieving-sdgs?utm_source=EN&utm_medium=GSR&utm_content=US_UNDP_PaidSearch_Brand_English&utm_campaign=CENTRAL&c_src=CENTRAL&c_src2=GSR&gclid=Cj0KCQiA3-yQBhD3ARIsAHuHT66IPZvn82ZAz-w3FW0GwebTQgerm3WXUOKaPn9Xnljs4uyA7ClbkasaApfzEALw_wcB)

Parpart, J.L. M. P. Connelly & V. E. Barriteau (Eds.), (2000) Theoretical perspectives on gender and development. Canada: International Development Research Centre. . Retrieved from <https://www.idrc.ca/en/book/theoretical-perspectives-gender-and-development?PublicationID=269>

Cornwall A and Jolly S. Sexuality Matters. (2006) Retrieved from [https://opendocs.ids.ac.uk/opendocs/bitstream/handle/20.500.12413/8379/IDSB\\_37\\_5\\_10.1111-j.1759-5436.2006.tb00295.x.pdf;jsessionid=A0A4944AA5A6BAE3FBC5EA746A67E8E6?sequence=1](https://opendocs.ids.ac.uk/opendocs/bitstream/handle/20.500.12413/8379/IDSB_37_5_10.1111-j.1759-5436.2006.tb00295.x.pdf;jsessionid=A0A4944AA5A6BAE3FBC5EA746A67E8E6?sequence=1)

## **For Part II. Women's Situation and Gender Issues in the context of the SDGs**

UN Women (2021). Progress on the Sustainable Development Goals – Gender Snapshot 2021. Retrieved from <https://www.unwomen.org/en/digital-library/publications/2021/09/progress-on-the-sustainable-development-goals-the-gender-snapshot-2021>

	<p>The Global Gender Gap Report 2020. World Economic Forum. Retrieved from <a href="http://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2020.pdf">http://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2020.pdf</a></p> <p>UN Women. (2019) Progress of the World’s Women 2019-2020. Retrieved from <a href="https://www.unwomen.org/-/media/headquarters/attachments/sections/library/publications/2019/progress-of-the-worlds-women-2019-2020-executive-summary-en.pdf?la=en&amp;vs=3513">https://www.unwomen.org/-/media/headquarters/attachments/sections/library/publications/2019/progress-of-the-worlds-women-2019-2020-executive-summary-en.pdf?la=en&amp;vs=3513</a></p> <p>BBC (2021). Why Japan Can’t Shake Sexism. Retrieved from <a href="https://www.bbc.com/worklife/article/20210405-why-japan-cant-shake-sexism">https://www.bbc.com/worklife/article/20210405-why-japan-cant-shake-sexism</a></p> <p>Japan ranks 120<sup>th</sup> in global gender gap report. (2021). Retrieved from <a href="https://www.nippon.com/en/japan-data/h00982/">https://www.nippon.com/en/japan-data/h00982/</a></p> <p>UN Women. How Covid-10 Impacts Women and Girls. Retrieved from <a href="https://interactive.unwomen.org/multimedia/explainer/covid19/en/index.html?gclid=CjwKCAiAvOeQBhBKEiwAxutUVHoJR-2RmcGAHontrGpFwH_0yhzpfRGU9SkhSh4W4eRRriCc5xhbEhoCjG0QAvD_BwE">https://interactive.unwomen.org/multimedia/explainer/covid19/en/index.html?gclid=CjwKCAiAvOeQBhBKEiwAxutUVHoJR-2RmcGAHontrGpFwH_0yhzpfRGU9SkhSh4W4eRRriCc5xhbEhoCjG0QAvD_BwE</a></p> <p><b>FOR PART III (Gender and Development Strategies)</b></p> <p>IDS, IDRC, and Oxfam (2016). Addressing Unpaid Care Work for the Economic Empowerment of Women and Girls. Retrieved from <a href="https://idl-bnc-idrc.dspacedirect.org/bitstream/handle/10625/55634/IDL-55634.pdf">https://idl-bnc-idrc.dspacedirect.org/bitstream/handle/10625/55634/IDL-55634.pdf</a></p> <p>Unpaid Care Why and How to Invest. Policy Briefing for National Governments.(2018) <a href="https://socialprotection-humanrights.org/wp-content/uploads/2018/04/bn-unpaid-care-work-policies-120118-en.pdf">https://socialprotection-humanrights.org/wp-content/uploads/2018/04/bn-unpaid-care-work-policies-120118-en.pdf</a></p> <p>Pineda Ofreneo, Rosalinda and Mylene D. Hega (2016). Women’s solidarity economy initiatives to strengthen food security in response to disasters: Insights from two case studies. <u>Disaster Prevention and Management</u>. Vol 25, Issue 2, pp. 168-182. PDF file.</p>
<p><b>Assignments for preparation and review</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Review the entire course guide to determine the coverage, schedule, and outputs.</li> <li>2) Decide which topics you wish to focus on. Download the selected texts recommended for these topics in advance and consider which week you want to be a facilitator</li> <li>3) Every time you do your reading, try to summarize the key ideas in the texts as well as your reflections on these in one page or more.</li> <li>4) Try to read other papers or books introduced in the reference to enhance your understanding. You can also search for relevant videos and translations in Japanese to facilitate comprehension.</li> </ol> <p>Please do not hesitate to contribute or comment on the bulletin board for this web class even if you find writing in English difficult. Please remember that this exercise is meant for you to be able to express yourselves clearly and understandably in a foreign language (English) which is the usual mode of</p>

	communication in international social development
<p><b>Possible References For Book . Article, or Video Review</b></p>	<p>You may choose from the following, or select from your own sources</p> <p>Kabeer, Naila. (2016) Breaking the Wall of Gender Inequality. Retrieved from <a href="https://www.youtube.com/watch?v=YBHDgoIHCc0">https://www.youtube.com/watch?v=YBHDgoIHCc0</a></p> <p>Crenshaw, Kimberley (2016). The Urgency of Intersectionality Retrieved from <a href="https://www.youtube.com/watch?v=akOe5-UsQ2o&amp;t=404s">https://www.youtube.com/watch?v=akOe5-UsQ2o&amp;t=404s</a></p> <p>Edwards, S. (2017). Why Include Men and Boys in the Fight for Gender Equality? Retrieved from <a href="https://www.devex.com/news/why-include-men-and-boys-in-the-fight-for-gender-equality-90245">https://www.devex.com/news/why-include-men-and-boys-in-the-fight-for-gender-equality-90245</a></p> <p>Inoue, N. (2022). Everyone has a SOGIE. Retrieved from <a href="https://zenbird.media/everyone-has-a-sogie-understanding-orientation-gender-and-expression/">https://zenbird.media/everyone-has-a-sogie-understanding-orientation-gender-and-expression/</a></p> <p>United Nations (2009). The Impossible Dream. Retrieved from <a href="https://www.youtube.com/watch?v=t2JBPBIFR2Y">https://www.youtube.com/watch?v=t2JBPBIFR2Y</a></p>
<p><b>Evaluation method &amp; Criteria</b></p>	<p>Joining in the discussion with written submissions (60%) Book, Article or Video Review (20%) Report (20%) Pass line (60%)</p>

## **Participatory Development**

### Introduction to Participatory Approaches for Development and Empowerment

(September 2022 - January 2023)

#### **Objectives**

Participation has been one of the key terms widely used in the development field for last two decades and more. It has been very popular among the big donors, grassroots organizations, governmental organizations, civil societies, academic institutes, and so many other actors who work for 'development'. However, the term participation is defined in different ways by its different users. Likewise, a big blame to its users is that they seek 'people's participation' in development process in order to fulfil own agendas over the people.

However, it is true that no development can take place properly without active participation of the local people. People's active participation is required not to implement already planned project by the outsider-organizations but from the very beginning of the development-planning phase. It is local people's rights to think, plan and act for their development, which affects their lives and conditions. In addition, it is their responsibility as well. Development planning must be based on the local cultural context. Only the local people know better about their cultural context, not the outsiders. It is therefore, the main actors of development should be the local people themselves, not outsiders. Outsiders; both individuals and organizations can play the role of facilitators with some technical and other necessary supports.

Communication plays a vital role to generate an appropriate coordination among the people and between the outsiders and the local people in order to understand the local realities as well as to think and plan for the betterment of the community. However, community consists of people from different caste group, different language users, different well-being categories, different education status, different level of exposure and with many other differences and diversities. Only one model of communication therefore does not work to generate participation of the people with different backgrounds. Various communication methods and strategies are required in order for having people's participation in the development process. Facilitators must be aware of this reality and must have capability of using proper communication with the local people; mainly with the marginalized section who are often isolated even from the so-called 'participatory development process'.

The emergence of participatory rural appraisal (PRA) in the beginning and now widely used term participatory learning and action (PLA) as an approach with the objective of creating effective communication among the marginalized section people. Many tools of PRA/PLA have been developed, which help even illiterate people to participate in the social analysis process of the community and plan for the change.

## Organization of Class Session

The course includes comprehensive readings. Students have to participate in interactions (through NFU's wall) to gain theoretical knowledge on participatory development and some participatory methods, which can be applied to materialize participatory development process.

### A. Immersion (introduction) among the students and lecturer

1. Introduction with students
2. Introduction of the course contents
3. Expectations from students
4. Introduction of "evaluation method"

### B. Brief history of Development Discourse

- Various definitions of development
- A brief history of development discourse
- Sustainable development goals (discussion on its relevance)
- Indigenous meaning of development

#### Readings:

1. Rist, Gilbert (2008), *The History of Development: from western origins to global faith (3rd edition)* (London: Zed Books).
2. Scachs, (2000) (eds.), *The Development Dictionary: A Guide to Knowledge as Power*, New Delhi: Orient Longman
3. Rapley, J. (2000), *Understanding Development: Theory and Practice in the Third World*, New Delhi: Viva Books.

### C. Participation and Participatory Development

- Meaning and importance of participation in development process
- Level and types of participation
- Description of participatory development and its characteristics
- Participatory project cycle and roles of development facilitators

#### Readings:

1. Chambers, Robert (1997a), *Whose Reality Counts? Putting the first last* (London: Intermediate Technology Publications).
2. Nikkhah, Hedyat Allah and Redzuan, Ma'rof (2009), 'Participation as a Medium of Empowerment in Community Development', *European Journal of Social Sciences*, 11 (1), 170-76.

### D. Methods for Participatory Communication

- PRA/PLA tools
- FGD, Interviews, and Observation

#### Readings:

1. Kumar, Somesh (1996), 'ABC of PRA: attitude and behaviour change', *PLA Notes*, 27, 70-73.

2. Pretty, N. Jules et al (1995), *A Trainer's Guide for Participatory Learning and Action*, London: IIED.
3. ABC of PRA: Attitude, Behavior and Change: a report on South - South workshop on PRA: attitude and behavior.

**F. Exam**

Instructor will examine students' capability based on their participation in the wall.

科目名	福祉社会開発演習	2単位
担当者	平野隆之	
テーマ	福祉社会の開発の理論と方法	
科目のねらい	<p>&lt;キーワード&gt; 福祉と開発の統合、制度の狭間、場づくり、アクターとしての研究者</p> <p>&lt;内容の要約&gt; 高度に制度化された現代日本で私たちが直面する社会問題の多くは、逆に既存の制度の狭間や機能不全から生じている。それは、中山間地での生活困難、生活困窮者の社会的孤立、そして被災地の復興の難しさにもみられる。この演習では、制度のギャップないし不在、条件の不利といった課題を抱える地域で、資源を見出し、人びとのアクションを力づけ、生きる歓びを再発見する「場づくり」とその支援の方法を学ぶ。さらに、それらを理論づけるための枠組みと研究者の役割について、いくつかの提起を行う。</p> <p>&lt;学習目標&gt; 福祉と開発を融合する福祉社会開発の理論的な枠組みを学ぶとともに、それらを生み出す豊富な実践についての理解を深める。受講生のフィールドに応用することを目指す。</p>	
授業の進め方	<p>第1回 本書（テキスト）の章構成の紹介 第2～4回 第1章 福祉社会開発と研究（ゲスト講師：穂坂光彦） ①マクロの政策学 ②メゾの計画学 ③ミクロの臨床学 第5～6回 第3章 「場づくり」の理論と方法（ゲスト講師：吉村輝彦） 本書のサブタイトルの「場の形成と支援ワーク」の理解 第7回 第10章2「たまり場」と「場づくり師」 第5章 地域支援企画員による場づくり支援 「場の形成と支援ワーク」の実践内容の理解 第8回 第10章1 釧路における福祉社会開発の実験 第9～10回 第12章 アクターとしての研究者 参考：第2章 アクターとしての調査実践 第11回 第5章 中山間地域からみた福祉社会の開発 参考：配布論文「高知県との地域福祉共同研究プロジェクトの展開と成果」 第12回 第13章 制度的福祉の限界と福祉社会開発 第13～14回 第11章 方法としての「メタ現場」：研究と実践の協働空間 第15回 まとめめの討論</p>	
事前学習の内容・学習上の注意	指定テキストを事前に通読してください。	
本科目の関連科目	地域社会開発論	
テキスト	穂坂光彦/平野隆之/朴兪美/吉村輝彦編（2013年）『福祉社会の開発：場の形成と支援ワーク』（ミネルヴァ書房）4500円	
参考文献	平野隆之（2020）『地域福祉マネジメント-地域福祉と包括的支援体制』（有斐閣）	
成績評価方法と基準	掲示板授業への討論参加度（40%）と期末レポート（60%）により評価します。	